

セネガル通信

～日常や活動を岡山県の皆さんにお届けします～

JICA海外協力隊
2025-1次隊
小学校教育
長尾有花
2026/03/31

セネガルの学校事情

右の写真は、ある学校の教室の様子です。日本と比べて同じところや違うところを見つけてみてください。どんなところに注目しましたか？

私が学校を見学してまず感じたのは、「児童の数が多く」ということです。多い学級では、一クラス60人を超え、一つの机に2～3人が並んで授業を受けています。

10月に新学期が始まり、3か月ごとに休みがあります。学期末にはテストもあり、成績が良くない場合は留年することもあります。

教科は、フランス語、アラビア語、理科や社会などがあります。特に算数は曜日ごとに計算、測量、図形、問題解決と学ぶ領域が決められています。

体育や音楽、図工などの情操教育もカリキュラムの中にありますが、実際は、フランス語や算数で手一杯でこれらの授業が行われていない学校がほとんどです。

教科書は市場で購入しますが、クラスに数人しかもっていません。そのため、教科書や文房具を持っていない場合はお互いに貸し合っています。

日本との違いに驚くことも多いですが、こうした経験を通して新たな気付きがあります。また、日本の教育環境の良さも改めて実感しています。



08:00	登校（実際に始まるのは8時半以降）
11:00	休み時間（朝食としてパンやお菓子などをかう）
11:30	授業再開（早くても11:40開始）
13:00	下校・各家庭で昼食
16:00	登校（火・木曜日）（時間通りには始まりません）
18:00	下校（先生も残業なしで帰宅します）

見えてきた課題

まず一つは、「言語の問題」です。日常生活ではウォロフ語が使われていますが、授業はフランス語で行われるので、内容の理解に苦しむ児童も少なくありません。そのため、現在は、1年生は全てウォロフ語で授業を行うようになっています。

二つ目は、「学習時間と定着の問題」です。説明に多くの時間を使ってしまい、練習問題に取り組む時間が十分でないため、学習内容が定着しにくい傾向があります。高学年でも、簡単な計算を棒を書き数える姿が多く見られます。

三つ目は、「学習環境や指導の課題」です。集中力の維持が難しい場面や、体罰が行われている場面も見られます。

こうした課題に対して、少しでも力になれるよう活動しています。



私の最近の活動

現在、3校（公立2校、私立1校）を訪問し、主に算数の授業支援を行っています。

最近では、ほぼ毎週のようにストライキがあり、計画通りに活動できないこともあります。そうした中でも、所属先長やカウンターパートと活動の方向性を相談し、校長先生に提案して許可いただいた上で、先生方と一緒に授業づくりを進めています。

具体的には、数字一覧表や図形の展開図・立体図のワークシート、時計などの教具を作成しています。

数字一覧表は、3校の1・2年生のクラスで作成していますが、クラスごとに工夫が異なります。色使いや文字（筆記体にするかどうか）、具体物の表し方などを、先生方と相談しながら決めているからです。

また、セネガルの学校には日本のような職員室がなく、放課後は児童と一緒に帰宅します。そのため、休み時間に木陰に椅子を並べて過ごす時間が先生たちと話す大切な機会になっています。

あくまでも私一人で進めるのではなく、現地の先生方が主体となり教材づくりや授業を行うことを大切に、対話を重ねながら取り組んでいます。



次回セネガルの宗教事象について説明します！